

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	38701000281
法人名	有限会社 ユニット・ワン
事業所名	グループホーム ユニットいよ
所在地	伊予市 灘町302-1
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> * 歳をとっても、障害があっても、認知症になっても、誰もが大切にされ、安心して暮らせるグループホームを目指して人との関わりや会話を楽しめることを大切にしています。 * 「共に育つ」を目標に、スタッフ皆で学ぶ姿勢を大切にしています。「あたたかいまなざし・言葉・手」で支援できるよう努力しています。 * ご利用者が自分の力を発揮できる場や、楽しみを見つけることができるよう支援しています。 * ご利用者同士が馴染みの関係になれるようさり気なく支援しています。 * ご家族や地域の方との繋がりを大切にしています。 * 医療との連携を大切にしてご家族と相談しながら、できるだけグループホームで穏やかに過ごせるように努めています。 * 季節を感じたり、自然との触れ合いを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所からは海が近く、夏の花火大会を事業所の屋上から観覧したり、窓からは海に沈む夕日の絶景を眺めたりすることができる。事業所のある灘町地区の住民の防災意識は高く、事業所の避難訓練を一緒に行ったり災害対策を話し合ったりしているほか、災害発生時には事業所を避難場所として利用できることを地域住民に伝えている。協力医と連携が取れており、訪問診療による健康管理や急変時に迅速な対応ができ、利用者や家族は安心感がある。また、近くにある伊予農業高校生が授業の一環として週に1~2回訪問があり、野菜などの植え付けから収穫まで一緒に行う園芸セラピーを楽しんでいる。「ゆっくりと・一緒に・楽しく」「あたたかいまなざし・言葉・手」を目標に掲げ、利用者の尊厳と自立を確かなものとするため、管理者や職員、利用者、家族、地域がともに一丸となって「誰もが大切にされ安心して暮らせるグループホーム」を目指している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	有限会社 ユニット・ワン
(ユニット名)	グループホーム ユニットいよA棟
記入者(管理者)	
氏名	管理者 高橋 知子
評価完了日	平成 26 年 10 月 20 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念を玄関やフロアー、A棟B棟の掲示板に貼っている。理念を元に「共に育つ」「ゆっくりと・一緒に・楽しく」「あたたかいまなざし・言葉・手」を目標に掲げ、会議や朝のミーティング等の中で繰り返し確認して実践できるように努力している。スタッフ一人ひとりも、自己目標を掲げて取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 「悔いの残らないお世話をさせていただきます」という理念を基にして、年間目標を作成し実践できるよう努めている。管理者は、利用者から職員のあいさつや笑顔ある対応を教わりながら、利用者の尊厳と自立を確実なものとするため、サービスの向上にも努めている。また、管理者や職員、利用者、家族、地域住民が一丸となって「誰もが大切にされ安心して暮らせる」事業所を目指している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) ご近所の方への挨拶を心がけている。町内会や行事へも出来るだけ参加している。近所の庭の花の前で写真を撮らせていただきお話をしたり、散歩中出会った方に声をかけていただくこともある。地元高校生のボランティアが定期的に訪れ、ご利用者との交流を深めている。地域の写真が趣味の方が、ボランティアで写真を飾ってくださっている。</p> <p>(外部評価) 季節毎に近隣住民が景色などの写真を撮って飾りに来てくれたり、地元の伊予農業高校生が授業の一環として週1～2日訪問し、利用者と一緒に野菜などの植え付けから収穫まで一緒に行う園芸セラピーをしたりして交流をしている。毎回決まった5人の高校生が来てくれ、利用者顔馴染みになっている。事業所からは海が近く、夏の花火大会には屋上を開放し、利用者や家族、近隣住民が花火を楽しんでいる。また、近隣住民に呼びかけて利用者と一緒にお茶会を実施する際には、新たな協力者が増えたり、独居の高齢者の家の用事を頼まれたりすることもあるなど、相互の交流をしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議、行事、ボランティア等で気軽に入ってもらえる機会を作り、機会あるごとに認知症についての情報を提供し、認知症の理解に繋がるようにしている。GHの見学や申込みに来られた方のお話を聞きながら、必要時は出来るだけ分かり易く認知症について伝えるよう心掛けている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議では、ご利用者の日常の生活の様子を写真やエピソードで伝えている。GHでの認知症ケアについて事例を紹介し、認知症ケアへの取組みへのご意見等を頂き認知症ケアの向上に活かしている。地域の中でグループホームが果たせる役割について助言を頂いている。意見や質問については次回までに検討してお答えしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は近隣住民、民生委員、介護相談員、消防署員、薬局、市担当者等の参加を得て開催している。会議と一緒に防災訓練や救命救急講座、お茶会などを合わせて開催する工夫をしている。また、元介護相談員などの協力を得て近隣住民に声をかけてもらい、お茶会や歌の会で利用者と交流をするなど、参加者からも好評を得ている。会議では、事業所の事例を取り上げて参加者からアドバイスをもらったり、認知症についての理解を深めてもらっている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議には市の担当者が毎回参加して下さる。その場でグループホームの様子を伝えている。月に1度、グループホームの入居状況・待機者数を報告している。長寿介護課が事務局となり定期的にケアマネ連絡会を開催している。必ず参加し、情報交換している。会議・研修についても積極的に参加するようにしている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、事業所の実情を知ってもらいほかにアドバイスをもらっている。地域包括支援センターが主催するケアマネ部会に参加して情報を得たり、参加することで顔の見える関係づくりができ窓口で声をかけてもらえるようになってきている。毎月、介護相談員の受け入れもしている。また、市内のグループホーム管理者交流会に、地域包括支援センター職員も参加してもらえるよう働きかけている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 認知症の理解や介護技術の向上が、身体拘束をしないケアに繋がると考えている。身体拘束をしないケアを目指して勉強会を重ねている。玄関はオートロックになっているが、ユニットいよ内は、解放している。</p> <p>(外部評価) 1階にある出入り口は防犯上のためオートロックになっているが、事業所は2階にあるためエントランスホールなどに自由に行けるようになってきている。現在、身体拘束の対象となる行為はないが、転倒防止などのため以前ベッド柵をしていた利用者には、家族と主治医との相談を行い同意を得た上で使用していたこともある。拘束をしないためにも利用者一人ひとりの行動を観察し、認知症を理解することが大切だと管理者は職員に伝えている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の防止についてのマニュアルを作成している。GH内研修にて、認知症の理解・接遇・介護技術等繰り返し学ぶ機会を設けている。また、日々のケアの中で気づいたことや困っていることを職員間で気軽に話し合える雰囲気大切にしている。必要時は、管理者が個別面談をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要があれば相談に乗れるよう、管理者・ケアマネとして相談機関の確認や制度についての勉強の機会を持っている。ご利用者のご家族から相談を受ける機会があった。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 施設見学時や入居前の面談時、契約時となるべく複数にわたり説明をする機会を設けている。契約書の内容を十分に見ていただけるよう時間を取っている。質問にも丁寧に答えれる時間を設けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族の訪問時、運営推進会議、ケアプラン見直し時等、個人のアルバムを見ていただいたり、職員が直接ご利用者の様子や相談ごと等を伝える時間を取ってご家族からの要望も聞き取っている。遠方のご家族にも電話で連絡・相談を行い、家族とのコミュニケーションを大切にしている。相談員の訪問を受け、ご利用者の様子を見ていただいている。ご意見を頂きケアの向上に役立てている。	
			(外部評価) 「ユニットいよだより」を毎月発行し、写真をふんだんに使い家族に生活状況や行事内容を詳しく伝えている。家族の面会時には、管理者やホーム長、担当職員から声をかけ、日頃の様子などを具体的に伝えている。面会時に家族から「40歳から入れ歯を使用しているため、食べれるように何とかしたい」という要望が出され、歯科の訪問診療で入れ歯を調整して食欲が戻り、美味しく食べれるようになった事例もある。また、職員が普通の表情をしているつもりでも、利用者から「睨みつける。」と言われる場合があり、意見を真摯に受け止め、利用者の不安を和らげるために、気持ちのこもった笑顔での対応が重要であることを学び、サービスの向上に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回の会議や、朝のミーティング等で意見を出している。意見・相談等は随時、「管理者・長に言ってください。」と日頃より伝えているので、その都度、直接伝えてくれることが多い。職員間で話合ったり、必要に応じ、部長に伝えたりしている。提案書の様式を作り、スタッフからの提案がよりし易く、日々の業務に反映できるよう努めている。 (外部評価) 職員一人ひとりが年間目標を立て、それに対する個別の自己評価シートを基に管理者は個別面談を行い、意見を聞くようにしている。管理者としての経験は浅いが事業所での勤務経験は長く、職員と相互に意見を言いやすい関係を築いており、不安なことや心配なことがある場合は「どうすればいいですか」と職員から相談される場合が多く、その都度対応している。事業所内で話し合っても解決できない意見は、月1回開催される管理者会で伝え、結果は連絡ノートを活用し職員全員に周知している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者・ホーム長が職員の状態を把握し、現場の様々な問題を月1回の管理者会で代表に報告し、職場環境・条件の整備に努めている。管理者同士も常にコミュニケーションを取り、必要時は、部長等に日常的に相談し、早期に対応している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に参加したら研修報告にて職員間で共有するようにしている。毎月1回、GH内でケアの向上に向けた研修を行っている。個人の力量に合わせて日頃のケアの中でも相談を受けたり、介護技術の指導を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 外部研修の機会を大切にして積極的に参加している。相互研修にも毎年参加しており、研修後は、研修報告にて情報を職員間で共有している。市内のGHの管理者が集まる機会があり情報交換をしてサービスの質の向上を目指している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の面談を丁寧におこない、入居に至るまでの本人・ご家族の心配や不安を確認して、入居までに解消できることは十分に相談している。本人の今までの生活について情報を大切にしながらも、現在の本人の生活が安心できるものになるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの家族関係や介護内容、ご家族の気持ちに配慮しながら十分にお話を聞く時間を取り、関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 担当のケアマネージャーさんから詳しい情報を頂いて、一緒に検討して頂いている。ご家族が直接申し込んでこられた時は、できるだけ時間を取って丁寧にアセスメントしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人を支援することで、私たちはたくさんの学ぶ機会を頂いていると考えている。支援することで、私たちの方が支援して頂いていると感じることも多い。日々の関わりの積み重ねの中で信頼関係を築いていけるよう努力している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族は本人にとってかけがいのない人である。本人を、ご家族と一緒に支えているという気持ちを常に持ち、家族とのコミュニケーションを大切にしている。本人と家族それぞれの気持ちに配慮しながらも、お互いの関係を大切に思って支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人との会話の中で、連絡を取りたい人や馴染みの場所を知り、家族の協力も得て少しでも関係が保てるよう支援している。3階のデイケア利用者が昔からの友人という話を運営推進会議の「お茶会」で知る。デイケアスタッフとも連携を取りながら、会える機会を大切にしている。 (外部評価) センター方式の「今の私の姿です」というアセスメントシートを使用し、馴染みの人や場所を利用者から聞き出している。日々の生活の中で聞いた新たな情報は追加して記録し共有している。家族の協力も得て、お盆や正月には自宅に帰ったり、自宅までドライブに出かけ、鍵を預かってもらっていた隣人と思い出話をしながら家の中を一緒に見たりすることもある。また、建物3階にあるデイケアに友人等が来ている場合は、会いに行き会話を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 人と関わることを大切に思っている。気の合いそうな方が、馴染みの関係になれるよう座る位置を配慮し、さり気なく支援している。利用者同士が馴染みの関係になることで、本人にとってグループホームがより安心できる場所になっていると思う。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も、家族からの要望があればできる限り相談・支援に努めている。入院退居となった場合も、お見舞いに行き、関係を大切にしている。退去後も、ご家族にGHに立ち寄って頂いている。「次は母がGHの利用を考えている」と相談して頂く。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時には本人の思い・家族の思いを丁寧に聴き取るようにしている。日々の暮らしの中でも、本人の言葉を聞き取ることを大切にしている。また表情から本人の思いをくみ取る努力をしている。ご家族と相談して少しでも実現できるよう支援している。 (外部評価) 日々の生活の中で担当職員が中心となり、利用者から思いを聞いている。また、介護計画の見直し時にも利用者の思いを再確認している。思いを言いにくい利用者や伝えることが困難な利用者には、以前利用者から聞いた昔話を家族に伝え確認するなど、利用者や家族の思いが支援に活かされるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に丁寧に聴き取るようにしている。入居後もセンター方式を利用して情報の把握に努めている。本人との日常の会話の中やご家族の面会時の会話の中で本人のこれまでの暮らしの様子を把握するよう努め、本人の理解につなげている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別の記録、朝・夕の申し送り時に状態の変化等、情報の共有、毎月のケアプランの評価、半年ごとのアセスメント更新により情報の把握と共有に努めている。状態が不安定な方は、医療との連携・スタッフ間の細かな情報共有の為、記載方法も工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 日々の個別記録時にケアプランの評価を行っている。ケアプラン作成時でもできるだけ沢山のスタッフの意見を聞きながら担当者とケアマネが計画作成している。ご家族には面会時、遠方の方は電話等で日々の生活の様子や課題、要望等について連絡・相談することを大切にしている。主治医からも居宅管理指導にて色々と相談し、指導を頂いている。</p> <p>(外部評価) 家族等の意見を反映し、職員間で意見を出し合い担当職員と介護支援専門員が介護計画を作成している。毎月、担当職員は介護計画に対して具体的な文章にして評価を行っている。介護計画の変更時には、利用者や家族等、管理者、介護支援専門員、担当職員等がカンファレンスシートを活用しながら話し合い見直しをしている。カンファレンスに参加できない家族には、電話で要望等を聞く工夫をしている。また、日々の気づきは職員に事前にメモなどを提出してもらい、カンファレンスで活用している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 本人の言葉を大切に記録している。情報や気づきを共有し、本人の言動に込められている思いを皆で考え、実践や介護計画の見直しに活かしている。個別計画にケアプランの要点を入れて、毎日ケアプランを意識できるようにしている。1ヶ月の記録を見直してケアプランの評価をしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人にとって少しでもより良い支援、安心できる支援、ご家族の要望を支援することを大切に思っている。本人にしっかりと向き合っ、医療との連携、家族と十分に相談できる機会を大切に柔軟な支援に取り組む努力をしている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 本人の昔話の中に、懐かしい地域の話が出て来る。本人の思いをよく聞きながら、家族と相談しながら少しでも思いが現実になるよう努力している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 家族が受診に同行できない時は、前もって現在の状態等につ いて情報交換し、家族の意向も十分に把握するようにしてい る。家族のみの受診時には、日常の生活ぶりや状況の変化等 について文章にし、家族にも確認して頂き、主治医との連携 に努めている。 (外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を継続して受診することがで きる。訪問診療による健康管理や急変時に迅速な対応をする ことができるため、希望して協力医をかかりつけ医にしてい る利用者が多い。認知症の専門医をかかりつけ医としている 利用者もいる。家族の受診介助を基本としているが、どの医 療機関を受診する場合にも、家族に日常生活の近況等を記載 した連絡ノートを持参してもらい、受診結果を報告してもら うなど情報を共有している。また、管理者は医療機関の医師 や看護師との連携が大切であることを理解している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日頃の気づきや情報は、申し送り時やケアノートで共有して いる。異常時は早期に医療を受けれるよう対応している。訪 問診療時は、十分に時間を取っていただき看護師・主治医と 情報交換している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行ってい る。	(自己評価) 入院時は、十分な情報を提供し、入院後も家族・看護師・主 治医との連携を大切に考え、病院に向いて医療連携室と連 絡を取り、本人の状態を把握し、ご家族の意向を確認しなが ら情報収集している。退院時は、病院に向き、相談員・看 護師より退院時の情報提供を直接受けている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りの指針、緊急時の対応について、入居時に説明し、ご 家族の意向を伺い同意書を頂いている。入居後も状態に応じ て、ご家族の意向を確認している。必要に応じ、主治医と家 族と事業者が十分に話し合える機会を大切にし、内容を記録 し共有している。 (外部評価) 「重度化及び看取りに関する指針」を作成し、入居時に看取 り等について利用者や家族に説明し同意を得ている。状態の 変化に応じて、医師と職員、家族等を交えて話し合い、意向 などを確認している。今までに看取り経験はないが、終末期 や看取りに備え勉強会を実施している。また、管理者は外部 研修に参加し、「利用者から元気な時に話を聞いておく」と いうことを学んで職員にも伝達し、今後、利用者や家族から 看取りについての考えを聞く予定としている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 運営推進会議を利用して、救命基礎講座を受講している。緊急時対応マニュアルを身近なところに置き、職員が慌てず直に対応できるようにしている。個別に起こり得る緊急時の対応については、日々より意識して速やかに対応できるようにしている。(意識喪失・低血糖・てんかん発作)	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練を、消防所・市役所・地域の方の指導・協力・意見を頂きながら行っている。運営推進会議では防災についての意見交換も頻繁に行っている。日頃よりご近所の方とのコミュニケーションを大切にしてグループホームの様子を理解して頂いている。 (外部評価) 年2回消防署等の協力を得て、運営推進会議に合わせて避難訓練を実施する工夫をしている。事業所のある灘町地区の住民の防災意識は高く、事業所の避難訓練を一緒に行ったり災害対策を話し合ったりしている。災害発生時には事業所を避難場所として利用できることを地域住民に伝えている。また、次回の訓練では、地震体験車を使用した訓練と、現在準備中の備蓄品の確認を消防署等の協力を得て実施予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ご利用者がどのような状態でも大切にされ、安心して笑顔多く過ごせることを目指し、職員皆で月1度の内部研修をはじめ、日々の申し送り時・ミーティングでも繰り返し「あなたがいまなごし・言葉・手」で支援できるよう伝えている。非言語の重要性についても繰り返し伝えている。必要時は、管理者との個別面談にて理解を深める努力をしている。 (外部評価) 日頃から管理者は「自立と尊厳」を大切にして、利用者を支援するよう職員に伝えている。排泄時に、車いすで入るとドアが閉まらない場所には、ついたてを使用する配慮をしている。利用者に合った声かけをどのように行うのか職員間で話し合い、上手くいったケースと失敗したケースを共有しながら支援をしている。また、管理者は利用者の尊厳だけでなく、職員の尊厳も守れるよう検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご利用者の話に耳を傾けるようにしている。その中からご利用者の思いや希望を聞き取るようにしている。ご利用者によって選択肢を配慮している。「～してみませんか？」等声かけの仕方も気をつけている。「選択する」機会がより多く持てるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の声をよく聞くようにしている。また、言葉に表れにくい気持ちも察しながら、本人の希望を押し量って支援している。できるだけ、安全に注意しながらも、ご利用者が自分のペースで生活できるよう支援し、ゆとりを持って見守っている。毎夜、食事を食べてないという方がいる。主治医にも相談し、栄養状態にも配慮しながら夜食を準備して対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人に相談しながら、その日の服装を選んでいる。外出時など、特別な日の装いは、ご本人の希望も聞きながらご本人が笑顔になる装いを一緒に選んでいる。定期的にご本人の希望も聞きながら、ネイルカラーのお手入れを楽しんでもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 日々のメニューについて皆で確認したり、匂いについても話題に取り上げ楽しみにしている。好みを聞き、行事食などに取り入れている。野菜の皮むき・台拭き・お盆拭き・食器洗い等、できることを一緒にやっていただく機会を大切にしている。必ず感謝の言葉を丁寧に伝えるようにしている。 (外部評価) 食材とメニューは外部業者に依頼し、栄養バランスの取れた食事を提供している。野菜の皮むきやお盆の配膳、台拭きなど利用者ができることを手伝ってもらっている。利用者と同じテーブルを囲み、会話をしながら食事をしている。月1回希望に沿って、ちらし寿司などを職員と一緒に作り食ることが、利用者の楽しみの一つとなっている。また、折箱に食事を入れ趣向を代えることで、普段食事介助の必要な利用者が、一人ではしを持ち食べた事例もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日の食事量、水分量が分かるように記録している。日々の食事の状態を把握し、主治医と連携を取りながら、食事の量・形態の変化にも柔軟に対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 昼・夕は必ず口腔ケアを個別に行っている。朝食後も臥床する方は必ず行っている。年に1度、無料歯科検診により全員の口腔内を診ていただいている。必要な方は、その後も継続して専門的な訪問歯科診療を受けている。定期の歯科衛生士の訪問により、スタッフも口腔ケアについてご指導を頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) できるだけトイレで排泄ができるよう、見守り・声掛け・誘導をしている。状態を見ながら昼間はオムツから紙パンツへ、紙パンツから布パンツへと変えて過ごせるように支援している。	
			(外部評価) 日中にはトイレでの排泄を心がけて支援している。転倒等の危険性のある利用者は、夜間ポータブルトイレを使用している。尿意や便意を訴えることができない利用者には、時間を決めてトイレ誘導をしている。また、トイレに行きたくなくなったら手を挙げてもらうなど、プライバシーに配慮した対応もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表を作り、排便の状態が直ぐに把握できるようにしている。主治医・看護師に相談しながら、個々の状態に応じて、水分量・食事内容・運動・服薬を配慮しスムーズに排便できるよう支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日、朝から15時頃まで入浴時間を取って、個々の体調や状態に応じてゆっくりと入浴して頂いている。服の着脱や入浴動作もできることはゆっくりとして頂いたり、昔話などをしたり、入浴の時間が楽しいものとなるよう配慮している。	
			(外部評価) 日曜日以外は毎日午前中と午後3時まで、希望に応じて入浴することができる。入浴を好まない利用者には、利用者同士で誘ってもらったり、「髭剃りをしましょう。たまにはゆっくりしましょう」と声かけをする工夫をしている。陰部などは極力利用者自身で洗ってもらい、できない部分を入浴介助している。更衣介助からゆっくり時間をかけ、昔話をしながらくつろいで入浴できるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は、個々の心身の状態に応じて休息を取れるよう配慮している。光・音・室温等にも注意を払っている。安心して眠れるような声掛け・関わりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ご利用者全員の服薬説明書を綴じたお薬ファイルを作っており、その都度直に確認でき、スタッフが個々の服薬内容を理解できるよう努めている。服薬内容を理解した上でのケアを意識できるよう努めている。主治医との連携でも活かされている。服薬の変更があった場合はケアノート・申し送り時等で必ず共有しその後の心身の変化に気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活の中で自分の力が活かせる場の配慮・工夫を心掛けている。手伝いに対して、「ありがとうございます」と必ず感謝の言葉を伝えるよう心掛けている。自分のアルバムや家族の面会ノート・学習・興味ある本の提供・3階ベランダへの散歩・他ご利用者との関わりの支援等、できるだけ個々の興味ある活動で、身体や心が動く支援を努力している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節の良い時には、ドライブにて自然の様子が楽しめるように支援している。買い物の希望がある時は、日程の調整は必要な時もあるが、本人が行けるように配慮している。地域の行事にも少数ではあるが、参加できるよう努めている。家族とのコミュニケーション・協力により、外出の機会が増えていく人もいる。 (外部評価) 事業所近くの海辺を散歩したり、近所の家に咲く四季折々の花を見に行ったりしている。管理者は散歩に行けない日にも、利用者に「空を見に行こう」と声をかけ、屋上や戸外に出て外気浴をして気分転換ができる工夫をしている。利用者の希望に応じて、買い物に出かけたり、お墓参りに出かけられるよう個別支援もしている。また、家族等の協力を得て、イチゴ狩りなどにも出かけている。	入居されて年月が経った利用者は重度化する傾向にあり、外出する機会が少なくなっている。外出計画を立てたり職員の勤務調整をしたりするなど、外出できる機会を少しでも多く提供することを望みたい。また、利用者や家族の希望に沿った地域への外出や、交流のある伊予農業高校等の行事等へ参加し交流できることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族、ご本人了解のもと、ご本人で自由に管理している方もいる。買い物の時には自分で支払えるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 定期にご家族から電話がかかってくる方が数人いる。電話を受ける場所を個々の状態に応じ、自室や事務所とし、安心してゆっくりお話しができるよう配慮している。本人が希望される場合は電話ができるよう支援している。家族からスタッフへの手紙を頂くこともよくある。ご本人と一緒に見るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の草花を飾り、自然を感じられるよう配慮している。テレビをゆっくりと見えるようテーブルの位置を変えたり、馴染みの方でお話を楽しめるよう席を配慮している。テレビをつけっぱなしにせずに、活動に応じた空間づくりに気をつけている。 (外部評価) 暖房が必要な時期になると湿度が50%前後になるよう、室内に洗濯物を干すなど調整し、過ごしやすい環境整備をしている。共用空間にはテーブルを3台おき、利用者全員で食事や水分補給、おやつ作り、レクリエーションを楽しむことができるよう配慮している。訪問調査日には昼食後に利用者が集い、アカペラで歌い続ける姿が見られた。また、クリスマスなどの季節の飾りや四季の花がテーブル中央に飾られたりするなど、落ち着いたきのある空間づくりをしている。また、日付が分かりやすいよう、大きなカレンダーを掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 馴染みのご利用者との関わり・会話が楽しめるよう椅子の配置に気をつけている。「安心できる自分の居場所」と感じてもらえるよう配慮している。居室内にも安全に配慮して椅子を置き、一人でゆっくり過ごしたり馴染みのご利用者同士で過ごせるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご家族と相談して、本人の馴染みの物を少しずつ揃えていただいたり、安全に注意しながらも、できるだけ本人の思いに沿える部屋作りを支援している。家族の写真や本人の気に入ったポスター等を飾って、少しでも落ち着いたき馴染みの部屋になるよう支援している。 (外部評価) 居室には家族の写真や利用者の書いた習字などが飾られ、居心地の良い空間となっている。出入口は暖簾が掛けられ、目隠しとして使用されている。利用者の居室が分かりやすいよう、好きな犬の写真を入口に貼って目印にしたり、壁には好きな動物の写真などを飾る工夫をしている。海側に面した居室からは、座った位置からも海に沈む夕日の絶景を眺めることができる。また、居室内に外線電話を設置することができ、希望すれば自室から電話を掛けることもできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリーになっており、歩行器での歩行が可能である。車椅子も自操して自由に行き来している。車椅子でもタンス内の衣類を自分で出し入れできるよう家具の配置を工夫している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000281
法人名	有限会社 ユニット・ワン
事業所名	グループホーム ユニットいよ
所在地	伊予市 灘町302-1
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> * 歳をとっても、障害があっても、認知症になっても、誰もが大切にされ、安心して暮らせるグループホームを目指して人との関わりや会話を楽しめることを大切にしています。 * 「共に育つ」を目標に、スタッフ皆で学ぶ姿勢を大切にしています。「あたたかいまなざし・言葉・手」で支援できるよう努力しています。 * ご利用者が自分の力を発揮できる場や、楽しみを見つけることができるよう支援しています。 * ご利用者同士が馴染みの関係になれるようさり気なく支援しています。 * ご家族や地域の方との繋がりを大切にしています。 * 医療との連携を大切にしてご家族と相談しながら、できるだけグループホームで穏やかに過ごせるように努めています。 * 季節を感じたり、自然との触れ合いを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所からは海が近く、夏の花火大会を事業所の屋上から観覧したり、窓からは海に沈む夕日の絶景を眺めたりすることができる。事業所のある灘町地区の住民の防災意識は高く、事業所の避難訓練を一緒に行ったり災害対策を話し合ったりしているほか、災害発生時には事業所を避難場所として利用できることを地域住民に伝えている。協力医と連携が取れており、訪問診療による健康管理や急変時に迅速な対応ができ、利用者や家族は安心感がある。また、近くにある伊予農業高校生が授業の一環として週に1~2回訪問があり、野菜などの植え付けから収穫まで一緒に行う園芸セラピーを楽しんでいる。「ゆっくりと・一緒に・楽しく」「あたたかいまなざし・言葉・手」を目標に掲げ、利用者の尊厳と自立を確かなものとするため、管理者や職員、利用者、家族、地域がともに一丸となって「誰もが大切にされ安心して暮らせるグループホーム」を目指している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 有限会社 ユニット・ワン

(ユニット名) グループホーム ユニットいよB棟

記入者(管理者)

氏名 管理者 高橋 知子

評価完了日

平成 26 年 10 月 20 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念を玄関やフロアー、A棟B棟の掲示板に貼っている。理念を元に「共に育つ」「ゆっくりと・一緒に・楽しく」「あたたかいまなざし・言葉・手」を目標に掲げ、会議や朝のミーティング等の中で繰り返し確認して実践できるように努力している。スタッフ一人ひとりも、自己目標を掲げて取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 「悔いの残らないお世話をさせていただきます」という理念を基にして、年間目標を作成し実践できるよう努めている。管理者は、利用者から職員のあいさつや笑顔ある対応を教わりながら、利用者の尊厳と自立を確実なものとするため、サービスの向上にも努めている。また、管理者や職員、利用者、家族、地域住民が一丸となって「誰もが大切にされ安心して暮らせる」事業所を目指している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) ご近所の方への挨拶を心がけている。町内会や行事へも出来るだけ参加している。近所の庭の花の前で写真を撮らせていただきお話をしたり、散歩中出会った方に声をかけていただくこともある。地元高校生のボランティアが定期的に訪れ、ご利用者との交流を深めている。地域の写真が趣味の方が、ボランティアで写真を飾ってくださっている。</p> <p>(外部評価) 季節毎に近隣住民が景色などの写真を撮って飾りに来てくれたり、地元の伊予農業高校生が授業の一環として週1～2日訪問し、利用者と一緒に野菜などの植え付けから収穫まで一緒に行う園芸セラピーをしたりして交流をしている。毎回決まった5人の高校生が来てくれ、利用者顔馴染みになっている。事業所からは海が近く、夏の花火大会には屋上を開放し、利用者や家族、近隣住民が花火を楽しんでいる。また、近隣住民に呼びかけて利用者と一緒にお茶会を実施する際には、新たな協力者が増えたり、独居の高齢者の家の用事を頼まれたりすることもあるなど、相互の交流をしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議、行事、ボランティア等で気軽に入ってもらえる機会を作り、機会あるごとに認知症についての情報を提供し、認知症の理解に繋がるようにしている。GHの見学や申込みに来られた方のお話を聞きながら、必要時は出来るだけ分かり易く認知症について伝えるよう心掛けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議では、ご利用者の日常の生活の様子を写真やエピソードで伝えている。GHでの認知症ケアについて事例を紹介し、認知症ケアへの取組みへのご意見等を頂き認知症ケアの向上に活かしている。地域の中でグループホームが果たせる役割について助言を頂いている。意見や質問については次回までに検討してお答えしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は近隣住民、民生委員、介護相談員、消防署員、薬局、市担当者等の参加を得て開催している。会議と一緒に防災訓練や救命救急講座、お茶会などを合わせて開催する工夫をしている。また、元介護相談員などの協力を得て近隣住民に声をかけてもらい、お茶会や歌の会で利用者と交流をするなど、参加者からも好評を得ている。会議では、事業所の事例を取り上げて参加者からアドバイスをもらったり、認知症についての理解を深めてもらっている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議には市の担当者が毎回参加して下さる。その場でグループホームの様子を伝えている。月に1度、グループホームの入居状況・待機者数を報告している。長寿介護課が事務局となり定期的にケアマネ連絡会を開催している。必ず参加し、情報交換している。会議・研修についても積極的に参加するようにしている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、事業所の実情を知ってもらうほかアドバイスをもらっている。地域包括支援センターが主催するケアマネ部会に参加して情報を得たり、参加することで顔の見える関係づくりができ窓口で声をかけてもらえるようになってきている。毎月、介護相談員の受け入れもしている。また、市内のグループホーム管理者交流会に、地域包括支援センター職員も参加してもらえるよう働きかけている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 認知症の理解や介護技術の向上が、身体拘束をしないケアに繋がると考えている。身体拘束をしないケアを目指して勉強会を重ねている。玄関はオートロックになっているが、ユニットいよ内は、解放している。</p> <p>(外部評価) 1階にある出入り口は防犯上のためオートロックになっているが、事業所は2階にあるためエントランスホールなどに自由に行けるようになってきている。現在、身体拘束の対象となる行為はないが、転倒防止などのため以前ベッド柵をしていた利用者には、家族と主治医との相談を行い同意を得た上で使用していたこともある。拘束をしないためにも利用者一人ひとりの行動を観察し、認知症を理解することが大切だと管理者は職員に伝えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の防止についてのマニュアルを作成している。GH内研修にて、認知症の理解・接遇・介護技術等繰り返し学ぶ機会を設けている。また、日々のケアの中で気づいたことや困っていることを職員間で気軽に話し合える雰囲気大切にしている。必要時は、管理者が個別面談をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要があれば相談に乗れるよう、管理者・ケアマネとして相談機関の確認や制度についての勉強の機会を持っている。ご利用者のご家族から相談を受ける機会があった。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 施設見学時や入居前の面談時、契約時となるべく複数にわたり説明をする機会を設けている。契約書の内容を十分に見ていただけるよう時間を取っている。質問にも丁寧に答えられる時間を設けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族の訪問時、運営推進会議、ケアプラン見直し時等、個人のアルバムを見ていただいたり、職員が直接ご利用者の様子や相談ごと等を伝える時間を取ってご家族からの要望も聞き取っている。遠方のご家族にも電話で連絡・相談を行い、コミュニケーションを大切にしている。相談員の訪問を受け、ご利用者の様子を見ていただいている。ご意見を頂きケアの向上に役立っている。	
			(外部評価) 「ユニットいよだより」を毎月発行し、写真をふんだんに使い家族に生活状況や行事内容を詳しく伝えている。家族の面会時には、管理者やホーム長、担当職員から声をかけ、日頃の様子などを具体的に伝えている。面会時に家族から「40歳から入れ歯を使用しているため、食べれるように何とかしたい」という要望が出され、歯科の訪問診療で入れ歯を調整して食欲が戻り、美味しく食べれるようになった事例もある。また、職員が普通の表情をしているつもりでも、利用者から「睨みつける。」と言われる場合があり、意見を真摯に受け止め、利用者の不安を和らげるために、気持ちのこもった笑顔での対応が重要であることを学び、サービスの向上に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回の会議や、朝のミーティング等で意見を出している。意見・相談等は随時、「管理者・長に言ってください。」と日頃より伝えているので、その都度、直接伝えてくれることが多い。職員間で話合ったり、必要に応じ、部長に伝えたりしている。提案書の様式を作り、スタッフからの提案がよりし易く、日々の業務に反映できるよう努めている。 (外部評価) 職員一人ひとりが年間目標を立て、それに対する個別の自己評価シートを基に管理者は個別面談を行い、意見を聞くようにしている。管理者としての経験は浅いが事業所での勤務経験は長く、職員と相互に意見を言いやすい関係を築いており、不安なことや心配なことがある場合は「どうすればいいですか」と職員から相談される場合が多く、その都度対応している。事業所内で話し合っても解決できない意見は、月1回開催される管理者会で伝え、結果は連絡ノートを活用し職員全員に周知している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者・ホーム長が職員の状態を把握し、現場の様々な問題を月1回の管理者会で代表に報告し、職場環境・条件の整備に努めている。管理者同士も常にコミュニケーションを取り、必要時は、部長等に日常的に相談し、早期に対応している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に参加したら研修報告にて職員間で共有するようにしている。毎月1回、GH内でケアの向上に向けた研修を行っている。個人の力量に合わせて日頃のケアの中でも相談を受けたり、介護技術の指導を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 外部研修の機会を大切に積極的に参加している。相互研修にも毎年参加しており、研修後は、研修報告にて情報を職員間で共有している。市内のGHの管理者が集まる機会があり情報交換をしてサービスの質の向上を目指している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の面談を丁寧におこない、入居に至るまでの本人・ご家族の心配や不安を確認して、入居までに解消できることは十分に相談している。本人の今までの生活について情報を大切にしながらも、現在の本人の生活が安心できるものになるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでのご家族関係や介護内容、ご家族の気持ちに配慮しながら十分にお話を聞く時間を取り、関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 担当のケアマネージャーさんから詳しい情報を頂いて、一緒に検討して頂いている。ご家族が直接申し込んでこられた時は、できるだけ時間を取って丁寧にアセスメントしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人を支援することで、私たちはたくさんの学ぶ機会を頂いていると考えている。支援することで、私たちの方が支援して頂いていると感じることも多い。日々の関わりの積み重ねの中で信頼関係を築いていけるよう努力している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族は本人にとってかけがいのない人である。本人を、ご家族と一緒に支えているという気持ちを常に持ち、コミュニケーションを大切にしている。本人とご家族それぞれの気持ちに配慮しながらも、お互いの関係を大切に思って支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人との会話の中で、連絡を取りたい人や馴染みの場所を知り、ご家族の協力も得て少しでも関係が保てるよう支援している。3階のデイケア利用者が昔からの友人という話を運営推進会議の「お茶会」で知る。デイケアスタッフとも連携を取りながら、会える機会を大切にしている。 (外部評価) センター方式の「今の私の姿です」というアセスメントシートを使用し、馴染みの人や場所を利用者から聞き出している。日々の生活の中で聞いた新たな情報は追加して記録し共有している。家族の協力も得て、お盆や正月には自宅に帰ったり、自宅までドライブに出かけ、鍵を預かってもらっていた隣人と思い出話をしながら家の中を一緒に見たりすることもある。また、建物3階にあるデイケアに友人等が来ている場合は、会いに行き会話を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 人と関わることを大切に思っている。気の合いそうな方が、馴染みの関係になれるよう座る位置を配慮し、さり気なく支援している。利用者同士が馴染みの関係になることで、本人にとってグループホームがより安心できる場所になっていると思う。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も、ご家族からの要望があればできる限り相談・支援に努めている。入院退居となった場合も、お見舞いに行き、関係を大切にしている。退去後も、ご家族にGHに立ち寄って頂いている。「次は母がGHの利用を考えている」と相談して頂く。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時には本人の思い・ご家族の思いを丁寧に聴き取るようにしている。日々の暮らしの中でも、本人の言葉を聞き取ることを大切にしている。また表情から本人の思いをくみ取る努力をしている。ご家族と相談して少しでも実現できるよう支援している。 (外部評価) 日々の生活の中で担当職員が中心となり、利用者から思いを聞いている。また、介護計画の見直し時にも利用者の思いを再確認している。思いを言いにくい利用者や伝えることが困難な利用者には、以前利用者から聞いた昔話を家族に伝え確認するなど、利用者や家族の思いが支援に活かされるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に丁寧に聴き取るようにしている。入居後もセンター方式を利用して情報の把握に努めている。本人との日常の会話の中や家族の面会時の会話の中で本人のこれまでの暮らしの様子を把握するよう努め、本人の理解につなげている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別の記録、朝・夕の申し送り時に状態の変化等、情報の共有、毎月のケアプランの評価、半年ごとのアセスメント更新により情報の把握と共有に努めている。状態が不安定な方は、医療との連携・スタッフ間の細かな情報共有の為、記載方法も工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 日々の個別記録時にケアプランの評価を行っている。ケアプラン作成時でもできるだけ沢山のスタッフの意見を聞きながら担当者とケアマネが計画作成している。ご家族には面会時、遠方の方は電話等で日々の生活の様子や課題、要望等について連絡・相談することを大切にしている。主治医からも居宅管理指導にて色々と相談し、指導を頂いている。</p> <p>(外部評価) 家族等の意見を反映し、職員間で意見を出し合い担当職員と介護支援専門員が介護計画を作成している。毎月、担当職員は介護計画に対して具体的な文章にして評価を行っている。介護計画の変更時には、利用者や家族等、管理者、介護支援専門員、担当職員等がカンファレンスシートを活用しながら話し合い見直しをしている。カンファレンスに参加できない家族には、電話で要望等を聞く工夫をしている。また、日々の気づきは職員に事前にメモなどを提出してもらい、カンファレンスで活用している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 本人の言葉を大切に記録している。情報や気づきを共有し、本人の言動に込められている思いを皆で考え、実践や介護計画の見直しに活かしている。個別計画にケアプランの要点を入れて、毎日ケアプランを意識できるようにしている。1ヶ月の記録を見直してケアプランの評価をしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人にとって少しでもより良い支援、安心できる支援、ご家族の要望を支援することを大切に思っている。本人にしっかりと向き合っ、医療との連携、ご家族と十分に相談できる機会を大切に柔軟な支援に取り組む努力をしている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 本人の昔話の中に、懐かしい地域の話が出て来る。本人の思いをよく聞きながら、ご家族と相談しながら少しでも思いが現実になるよう努力している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご家族が受診に同行できない時は、前もって現在の状態等につ いてご家族と情報交換し、意向を十分に把握するようにして いる。ご家族のみの受診時には、日常生活ぶりや状況の 変化等について文章にし、ご家族にも確認して頂き、主治医 との連携に努めている。 (外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を継続して受診することがで きる。訪問診療による健康管理や急変時に迅速な対応をする ことができるため、希望して協力医をかかりつけ医にしてい る利用者が多い。認知症の専門医をかかりつけ医としている 利用者もいる。家族の受診介助を基本としているが、どの医 療機関を受診する場合にも、家族に日常生活の近況等を記載 した連絡ノートを持参してもらい、受診結果を報告してもら うなど情報を共有している。また、管理者は医療機関の医師 や看護師との連携が大切であることを理解している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日頃の気づきや情報は、申し送り時やケアノートで共有して いる。異常時は早期に医療を受けれるよう対応している。訪 問診療時は、十分に時間を取っていただき看護師・主治医と 情報交換している。	
32		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行ってい る。	(自己評価) 入院時は、十分な情報を提供し、入院後も家族・看護師・主 治医との連携を大切に考え、病院に出向いて医療連携室と連 絡を取り、本人の状態を把握し、ご家族の意向を確認しなが ら情報収集している。退院時は、病院に出向き、相談員・看 護師より退院時の情報提供を直接受けている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りの指針、緊急時の対応について、入居時に説明し、ご 家族の意向を伺い同意書を頂いている。入居後も状態に応じ て、ご家族の意向を確認している。必要に応じ、主治医と家 族と事業者が十分に話し合える機会を大切にし、内容を記録 し共有している。 (外部評価) 「重度化及び看取りに関する指針」を作成し、入居時に看取 り等について利用者や家族に説明し同意を得ている。状態の 変化に応じて、医師と職員、家族等を交えて話し合い、意向 などを確認している。今までに看取り経験はないが、終末期 や看取りに備え勉強会を実施している。また、管理者は外部 研修に参加し、「利用者から元気な時に話を聞いておく」と いうことを学んで職員にも伝達し、今後、利用者や家族から 看取りについての考えを聞く予定としている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 運営推進会議を利用して、救命基礎講座を受講している。緊急時対応マニュアルを身近なところに置き、職員が慌てず直に対応できるようにしている。個別に起こり得る緊急時の対応については、日々より意識して速やかに対応できるようにしている。(意識喪失・低血糖・てんかん発作)	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練を、消防所・市役所・地域の方の指導・協力・意見を頂きながら行っている。運営推進会議では防災についての意見交換も頻繁に行っている。日頃よりご近所の方とのコミュニケーションを大切にしてグループホームの様子を理解して頂いている。 (外部評価) 年2回消防署等の協力を得て、運営推進会議に合わせて避難訓練を実施する工夫をしている。事業所のある灘町地区の住民の防災意識は高く、事業所の避難訓練を一緒に行ったり災害対策を話し合ったりしている。災害発生時には事業所を避難場所として利用できることを地域住民に伝えている。また、次回の訓練では、地震体験車を使用した訓練と、現在準備中の備蓄品の確認を消防署等の協力を得て実施予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ご利用者がどのような状態でも大切にされ、安心して笑顔多く過ごせることを目指し、職員皆で月1度の内部研修をはじめ、日々の申し送り時・ミーティングでも繰り返し「あなたがいまなごし・言葉・手」で支援できるよう伝えている。非言語の重要性についても繰り返し伝えている。必要時は、管理者との個別面談にて理解を深める努力をしている。 (外部評価) 日頃から管理者は「自立と尊厳」を大切にして、利用者を支援するよう職員に伝えている。排泄時に、車いすで入るとドアが閉まらない場所には、ついたてを使用する配慮をしている。利用者に合った声かけをどのように行うのか職員間で話し合い、上手くいったケースと失敗したケースを共有しながら支援をしている。また、管理者は利用者の尊厳だけでなく、職員の尊厳も守れるよう検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご利用者の話に耳を傾けるようにしている。その中からご利用者の思いや希望を聞き取るようにしている。ご利用者によって選択肢を配慮している。「～してみませんか？」等声かけの仕方も気をつけている。「選択する」機会がより多く持てるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の声をよく聞くようにしている。また、言葉に表れにくい気持ちも察しながら、本人の希望を押し量って支援している。できるだけ、安全に注意しながらも、ご利用者が自分のペースで生活できるよう支援し、ゆとりを持って対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人に相談しながら、その日の服装を選んでいる。外出時など、特別な日の装いは、ご本人の希望も聞きながらご本人が笑顔になる装いを一緒に選んでいる。定期的にご本人の希望も聞きながら、ネイルカラーのお手入れを楽しんでもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 日々のメニューについて皆で確認したり、匂いについても話題に取り上げ楽しみにしている。好みを聞き、行事食などに取り入れている。野菜の皮むき・台拭き・お盆拭き・食器洗い等、できることを一緒にやっていただく機会を大切にしている。必ず感謝の言葉を丁寧に伝えるようにしている。 (外部評価) 食材とメニューは外部業者に依頼し、栄養バランスの取れた食事を提供している。野菜の皮むきやお盆の配膳、台拭きなど利用者ができることを手伝ってもらっている。利用者と同じテーブルを囲み、会話をしながら食事をしている。月1回希望に沿って、ちらし寿司などを職員と一緒に作り食べることで、利用者の楽しみの一つとなっている。また、折箱に食事を入れ趣向を代えることで、普段食事介助の必要な利用者が、一人ではしを持ち食べた事例もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日の食事量、水分量が分かるように記録している。日々の食事の状態を把握し、主治医と連携を取りながら、食事の量・形態の変化にも柔軟に対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 昼・夕は必ず口腔ケアを個別に行っている。朝食後も臥床する方は必ず行っている。年に1度、無料歯科検診により全員の口腔内を診ていただいている。必要な方は、その後も継続して専門的な訪問歯科診療を受けている。定期の歯科衛生士の訪問により、スタッフも口腔ケアについてご指導を頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>できるだけトイレで排泄ができるよう、見守り・声掛け・誘導をしている。状態を見ながら昼間はオムツから紙パンツへ、紙パンツから布パンツへと変えて過ごせるように支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>日中にはトイレでの排泄を心がけて支援している。転倒等の危険性のある利用者は、夜間ポータブルトイレを使用している。尿意や便意を訴えることができない利用者には、時間を決めてトイレ誘導をしている。また、トイレに行きたくなくなった手を挙げてもらうなど、プライバシーに配慮した対応もしている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>排便チェック表を作り、排便の状態が直ぐに把握できるようにしている。主治医・看護師に相談しながら、個々の状態に応じて、水分量・食事内容・運動・服薬を配慮しスムーズに排便できるよう支援している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>毎日、朝から15時頃まで入浴時間を取って、個々の体調や状態に応じてゆっくりと入浴して頂いている。服の着脱や入浴動作もできることはゆっくりとして頂いたり、昔話などをしたり、入浴の時間が楽しいものとなるよう配慮している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>日曜日以外は毎日午前中と午後3時まで、希望に応じて入浴することができる。入浴を好まない利用者には、利用者同士で誘ってもらったり、「髭剃りをしましょう。たまにはゆっくりしましょう」と声かけをする工夫をしている。陰部などは極力利用者自身で洗ってもらい、できない部分を入浴介助している。更衣介助からゆっくり時間をかけ、昔話をしながらくつろいで入浴できるよう心がけている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>日中は、個々の心身の状態に応じて休息を取れるよう配慮している。光・音・室温等にも注意を払っている。安心して眠れるような声掛け・関わりに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ご利用者全員の服薬説明書を綴じたお薬ファイルを作っており、その都度直に確認でき、スタッフが個々の服薬内容を理解できるよう努めている。服薬内容を理解した上でのケアを意識できるよう努めている。主治医との連携でも活かされている。服薬の変更があった場合はケアノート・申し送り時等で必ず共有しその後の心身の変化に気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活の中で自分の力が活かせる場の配慮・工夫を心掛けている。手伝いに対して、「ありがとうございます」と必ず感謝の言葉を伝えるよう心掛けている。自分のアルバムや家族の面会ノート・学習・興味ある本の提供・3階ベランダへの散歩・他ご利用者との関わりの支援等、できるだけ個々の興味ある活動で、身体や心が動く支援を努力している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節の良い時には、ドライブにて自然の様子が楽しめるように支援している。買い物の希望がある時は、日程の調整は必要な時もあるが、本人が行けるように配慮している。地域の行事にも少数ではあるが、参加できるよう努めている。ご家族とのコミュニケーション・協力により、外出の機会が増えている人もいる。 (外部評価) 事業所近くの海辺を散歩したり、近所の家に咲く四季折々の花を見に行ったりしている。管理者は散歩に行けない日にも、利用者に「空を見に行こう」と声をかけ、屋上や戸外に出て外気浴をして気分転換ができる工夫をしている。利用者の希望に応じて、買い物に出かけたり、お墓参りに出かけられるよう個別支援もしている。また、家族等の協力を得て、イチゴ狩りなどにも出かけている。	入居されて年月が経った利用者は重度化する傾向にあり、外出する機会が少なくなっている。外出計画を立てたり職員の勤務調整をしたりするなど、外出できる機会を少しでも多く提供することを望みたい。また、利用者や家族の希望に沿った地域への外出や、交流のある伊予農業高校等の行事等へ参加し交流できることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族、ご本人了解のもと、ご本人で自由に管理している方もいる。買い物の時には自分で支払えるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 定期にご家族から電話がかかってくる方が数人いる。電話を受ける場所を個々の状態に応じ、自室や事務所とし、安心してゆっくりお話しができるよう配慮している。本人が希望される場合は電話ができるよう支援している。ご家族からスタッフへの手紙を頂くこともよくある。ご本人と一緒に見るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の草花を飾り、自然を感じられるよう配慮している。テレビをゆっくりと見えるようテーブルの位置を変えたり、馴染みの方でお話を楽しめるよう席を配慮している。テレビをつけっぱなしにせずに、活動に応じた空間づくりに気をつけている。 (外部評価) 暖房が必要な時期になると湿度が50%前後になるよう、室内に洗濯物を干すなど調整し、過ごしやすい環境整備をしている。共用空間にはテーブルを3台おき、利用者全員で食事や水分補給、おやつ作り、レクリエーションを楽しむことができるよう配慮している。訪問調査日には昼食後に利用者が集い、アカペラで歌い続ける姿が見られた。また、クリスマスなどの季節の飾りや四季の花がテーブル中央に飾られたりするなど、落ち着いたきのある空間づくりをしている。また、日付が分かりやすいよう、大きなカレンダーを掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 馴染みのご利用者との関わり・会話が楽しめるよう椅子の配置に気をつけている。「安心できる自分の居場所」と感じてもらえるよう配慮している。居室内にも安全に配慮して椅子を置き、一人でゆっくり過ごしたり馴染みのご利用者同士で過ごせるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族と相談して、本人の馴染みの物を少しずつ揃えていただいたり、安全に注意しながらも、できるだけ本人の思いに沿える部屋作りを支援している。家族の写真や本人の気に入ったポスター等を飾って、少しでも落ち着いたき馴染みの部屋になるよう支援している。 (外部評価) 居室には家族の写真や利用者の書いた習字などが飾られ、居心地の良い空間となっている。出入口は暖簾が掛けられ、目隠しとして使用されている。利用者の居室が分かりやすいよう、好きな犬の写真を入口に貼って目印にしたり、壁には好きな動物の写真などを飾る工夫をしている。海側に面した居室からは、座った位置からも海に沈む夕日の絶景を眺めることができる。また、居室内に外線電話を設置することができ、希望すれば自室から電話を掛けることもできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリーになっており、歩行器での歩行が可能である。車椅子も自操して自由に行き来している。車椅子でもタンス内の衣類を自分で出し入れできるよう家具の配置を工夫している。	